

# InstallShield 2009 Express Edition

2008 年 8 月 21 日

## はじめに

InstallShield 2009 Express Edition には多くの新機能および強化機能が含まれています。主な重要点は次のとおりです:

- **InstallShield** 前提条件を機能と関連付ける機能
- ビルボードの強化 - **Adobe Flash** アプリケーション ファイル (.swf) ビルボードと、より多くのイメージ ビルボード ファイル タイプ (.gif、.jpg、.jpeg)、新しいビルボード スタイル、およびビルボードのプレビュー機能をサポート
- 企業の新しい収益源となる **Yahoo!(R)** ツールバーをインストールへ追加するためのサポート
- ベスト プラクティス **ダイナミック ファイル リンク**
- **Setup.exe** および **Update.exe** ブートストラップの **Unicode** バージョンをビルドする機能
- **Setup.exe** にストリームされるファイルを圧縮し、圧縮レベルを指定できる機能

InstallShield 2009 Express Edition には、その他の重要なテクノロジーもサポートされています:

- **Windows Installer 4.5**
- **Visual Studio 2008**
- **.NET Framework 3.5**
- **.NET Framework 3.5 言語パック**
- **.NET Framework 3.0 SP1**
- **.NET Framework 3.0 言語パック**
- **.NET Framework 2.0 SP1**
- **SQL Server 2005 Express SP2**
- **Windows Mobile 6.x**
- **.NET Compact Framework 3.5**
- **SQL Server Compact Edition 3.5 および 3.1**

リリース ノートのアップデートを含む **InstallShield 2009 Express Edition** についての最新情報は、ナレッジベース記事「[Q200194](#)」をご覧ください。

## 新しい機能

### InstallShield 前提条件を機能と関連付けて、インストールを連鎖させる機能

InstallShield では、InstallShield 前提条件を 1 つまたは複数の機能と関連付けられるようになりました。この新しい種類の InstallShield 前提条件は、機能前提条件と呼ばれます。機能前提条件は、前提条件を含む機能がインストールされたときに、その前提条件がシステム上に既にインストールされていない場合にインストールされます。

プロジェクトに InstallShield 前提条件を含めると、複数のインストールを連鎖させることができるため、1 度に 1 つの実行シーケンスのみしか実行できない Windows Installer 制限を迂回することができます。Setup.exe セットアップランチャは、チェーンを管理するブートストラップアプリケーションとしての役割を果たします。

[再配布可能ファイル] ビューを使って、InstallShield 前提条件をプロジェクトに追加して、その前提条件をメインインストールの前に実行するの、メインインストールに含まれる 1 つまたは複数の機能と関連付けるのを指定できます。

以前は、すべての InstallShield 前提条件インストールが、メインインストールの実行前に実行されたため、InstallShield 前提条件を機能に関連付けることはできませんでした。この種類の前提条件は今後も使用できますが、今回より、セットアップ前提条件と呼ばれます。

### ビルボードの強化 - Adobe Flash アプリケーションファイル (.swf) ビルボードと、より多くのイメージビルボードファイルタイプ (.gif、.jpg、.jpeg)、新しいビルボードスタイル、およびビルボードのプレビュー機能をサポート

InstallShield には新しいビルボード関連の機能が含まれており、インストールのファイル転送段階における外観をより柔軟に制御することができます。

- プロジェクトに Adobe Flash アプリケーションファイル (.swf) をビルボードとして追加できます。Flash アプリケーションファイルは、ビデオ、動画、音声、インタラクティブインターフェイス、ゲーム、テキスト、その他の .swf ファイルがサポートするあらゆる要素で構成されます。
- InstallShield では .gif、.jpg、および .jpeg ファイルをビルボードとして使用できます。以前は、.bmp ファイルしかサポートされていませんでした。
- InstallShield には新しい "ビルボードの種類" 設定が含まれていて、インストールで使用するビルボードのスタイルを指定できます。たとえば、インストールが全画面背景を使用し、ビルボードを前面に、また小さい進行状況ボックスを画面の右下に表示するスタイルがあります。別のスタイルでは、インストールがビルボードを表示する標準サイズのダイアログを表示します。このダイアログの下の部分に、進行状況バーが表示されます。
- InstallShield では、リリースをビルドおよび実行せずに、実行時にビルボードがどのように表示されるのかをプレビューできます。ビルボードをプレビューすると、そのビルボードに現在構成されている背景色、位置、および関連設定を使ったビルボードの外観を確認できます。

InstallShield の [ビルボード] ビューでは、使用するビルボードの種類を選択、ビルボードファイルを追加、ビルボード関連の設定を構成、およびビルボードをプレビューできます。

この機能は Express プロジェクトに適用します。

### Windows Installer 4.5 再配布可能ファイル

InstallShield には、Windows Installer 4.5 用に以下の InstallShield 前提条件ファイル (.prq) が含まれています:

- Windows Vista と Server 2008 (x86) 用 Windows Installer 4.5 — この前提条件は、Windows Vista、Windows Vista SP1、または Windows Server 2008 を実行中している x86 ベースのシステムで、Windows Installer 4.5 エンジンを実装します。
- Windows Server 2003 SP1 以降 (x86) 用 Windows Installer 4.5 — この前提条件は、Windows Server 2003 SP1 または Windows Server 2003 SP2 を実行中している x86 ベースのシステムで、Windows Installer 4.5 エンジンを実装します。

- Windows XP SP2 以降 (x86) 用 Windows Installer 4.5 — この前提条件は、Windows XP SP2 または Windows XP SP3 を実行している x86 ベースのシステムで、Windows Installer 4.5 エンジンを実インストールします。

実行時に Windows Installer をインストールする場合、これらの InstallShield 前提条件を Express プロジェクトに追加できません。

この機能は Express プロジェクトに適用します。

### Setup.exe および Update.exe ブートストラップの Unicode バージョンをビルドする機能

今回より、プロジェクトで Setup.exe セットアップ ランチャを作成するとき、Unicode バージョンで作成するか、または ANSI バージョンで作成するかを指定することができます。以前、プロジェクトにセットアップ ランチャが含まれているとき、常に ANSI バージョンがビルドされていました。Unicode バージョンのビルドはサポートされていませんでした。

Unicode セットアップ ランチャは、ターゲット システムで 2 バイト言語のための適切なコード ページが実行されているいかにかわらず、セットアップ ランチャのユーザー インターフェイスで 2 バイト文字を正しく表示することができます。ANSI セットアップ ランチャは、ターゲット システムで適切なコード ページが実行されている場合のみ、セットアップ ランチャ ダイアログで 2 バイト文字を正しく表示します。適切なコード ページが実行されていない場合、これらのダイアログで 2 バイト文字が文字化けして表示されます。

[リリース] ビューでリリースについて表示される Setup.exe タブに新しく追加された "最短初期化時間" 設定を利用して、Unicode を使うか、または ANSI を使うかを指定することができます。すべての新しい Express プロジェクトでは、Unicode がデフォルトとして使用されます。

QuickPatch パッケージについて Update.exe アップデート ランチャを作成するときも、Unicode バージョンで作成するか、または ANSI バージョンで作成するかを指定することができます。[一般情報] ビューの [ビルドの設定] 領域にある [詳細] タブに新しく追加された "アップデート ランチャの種類" 設定を利用して、Unicode を使うか、ANSI を使うかを指定することができます。すべての新しい QuickPatch プロジェクトでは、Unicode がデフォルトとして使用されます。

### 新しい収益源となる Yahoo! (R) ツールバーをインストールへ追加するためのサポート

InstallShield に新しく追加された [付加価値サービス] ビューを使って、InstallShield インストールに付加価値サービスを組み込むと、これらのサービスがインストールまたは使用されたときにサービス契約条件に従って収益を得られます。

この InstallShield リリースには、付加価値サービスのサポート (Yahoo! ツールバー オファー) が 1 つ含まれています。このオファーに参加する場合、[付加価値サービス] ビューを使って、インストール プロジェクトに Yahoo! ツールバー を追加します。エンドユーザーが製品と共に Yahoo! ツールバーをインストールした場合、Yahoo! ツールバーが使用されるたびに報酬が支払われます。

### Setup.exe ブートストラップのログファイルを作成する機能

新しい /debuglog コマンドライン パラメータが Setup.exe セットアップ ランチャに追加されました。このコマンドライン パラメータを使用して、デバッグ用のログ ファイルを生成することができます。このパラメータと共に、完全パスと .log ファイル名を引用符を使って指定します。Setup.exe が書き込み可能な場所にある場合、/debuglog パラメータを単純に Setup.exe に渡します。これにより、InstallShield.log という名前のログ ファイルが Setup.exe ファイルと同じフォルダに作成されます。

インストールが InstallShield 前提条件を起動する場合、Setup.exe が作成するログファイルには InstallShield 前提条件のログ記録情報が含まれます。

この機能により IOA-000037487 が解決されました。

### 新しい Microsoft .NET 再配布可能ファイル

InstallShield には、今回新しく Express プロジェクトに追加することができる .NET 関連の InstallShield 前提条件がいくつか含まれています。

- Microsoft .NET Framework 3.5 (Web ダウンロード版)

- Microsoft .NET Framework 3.5 (完全パッケージ)
- Microsoft .NET Framework 3.5 言語パック
- Microsoft .NET Framework 3.0 SP1 (Web ダウンロード版)
- Microsoft .NET Framework 3.0 言語パック
- Microsoft .NET Framework 2.0 SP1

[再配布可能ファイル] ビューを使って、これらの InstallShield 前提条件をどれでもプロジェクトに追加することができます。

この機能により IOC-000066262 が解決されました。

### Setup.exe にストリームされるファイルを圧縮し、圧縮レベルを指定できる機能

今回より、Setup.exe セットアップ ランチャを使用するリリースをビルドしたとき、InstallShield によって、Setup.exe ファイルにストリームされるファイルが圧縮されるようになりました。InstallShield が使用するデフォルトの圧縮レベルは、ファイルのサイズと実行時に圧縮ファイルを展開するために必要な時間のバランスをとっての目安です。圧縮レベルを変更する場合、または圧縮をしない場合、マシン全体に適用する設定を利用してデフォルトのレベルをオーバーライドすることができます。

デフォルトで、ビルド時に InstallShield がファイルを Setup.exe ファイルにストリームするとき、.cab ファイル拡張子を持つファイルは圧縮されません。これは、.cab ファイルが既に圧縮されているファイルであるためです。デフォルトの圧縮除外一覧を変更して、他の種類のファイルや特定のファイルを必要に応じて選択することができます。除外一覧は、マシン全体に適用される設定です。

### マルチパート .cab ファイルのサポート

.cab ファイルには、いくつかの制限事項があります。たとえば、単一 .cab ファイルの最大サイズは 2 GB に設定されています。また、サイズの大きい .cab ファイルを署名しようとしたとき、およびサイズの大きい署名済み .cab ファイルのデジタル署名を検証しようとしたときにトラブルが生じた経験があるユーザーもいるかもしれません。今回より、これらの制限事項を回避するために、.cab ファイルのデフォルトの制限が 600 MB に設定されました。InstallShield で、リリースの .cab ファイルを作成しているとき、この制限に達すると、データが 2 つ以上の .cab ファイルに分割され、マルチパートの .cab ファイルが作成されます。

最大サイズは必要に応じて変更することができます。InstallShield でマルチパート .cab ファイルを作成しない場合、単一の .cab ファイルを作成するように構成できます。

この機能は Express プロジェクトに適用します。また、この機能は、すべてのファイルが単一ファイルの .msi パッケージまたは Setup.exe セットアップ ランチャに埋め込まれている圧縮済みネットワーク イメージ リリースをビルドしている場合のみ適用します。

### Windows Server 2008 上に IIS 7 Web サイトをインストールするためのサポート

InstallShield では、今回より、Windows Server 2008 システム上で IIS 7 Web サイトと仮想ディレクトリの作成ならびに管理ができるようになりました。この機能は、Express プロジェクトで提供されています。

### 追加された Microsoft SQL Server 2005 Express SP2 前提条件

InstallShield に Microsoft SQL Server 2005 Express Edition SP2 の InstallShield 前提条件が追加されました。この InstallShield 前提条件は、Express プロジェクトに追加することができます。

この機能により IOC-000065171 が解決されました。

### Microsoft Visual Studio 2008 サポート

InstallShield が Visual Studio 2008 と統合され、インストールと製品の開発を同じ Visual Studio インターフェイス内で行えるようになりました。

この機能により IOC-000067658 が解決されました。

## Visual Studio セットアップ プロジェクトを InstallShield プロジェクトに変換できる機能

InstallShield を使って、今回より、Visual Studio 2008、Visual Studio 2005、Visual Studio .NET 2003、または Visual Studio .NET セットアップ プロジェクト (.vdprj) を Express プロジェクト (.ise) に変換できます。

## Windows Mobile 6.x のサポート

InstallShield でインストールを作成するとき、Windows Mobile 6.x Professional、Windows Mobile 6.x Classic、または Windows Mobile 6.x Standard が搭載されているデバイスを直接ターゲットすることができるようになりました。これは、Express プロジェクトと Web プロジェクトに適用します。

## Windows Mobile 搭載デバイスのインストールにおけるデジタル署名の強化

InstallShield では今回より、Windows Mobile 搭載デバイス用のインストールに含まれる .cab ファイルのデジタル署名に personal information exchange ファイル (.pfx) を使用できるようになりました。デジタル署名にパスワードを指定することもできます。Windows Mobile ウィザードとスマート デバイス セットアップ ウィザードの [cab ファイルの署名] パネルで、.pfx ファイルとパスワードを指定します。

署名に .pfx ファイルを指定すると、InstallShield でファイルが署名される時 SignTool.exe が使用されます。.spc ファイルと .pvk ファイルを指定すると、ファイルの署名に Signcode.exe が使用されます。.pfx ファイルは、より多くの異なる環境 (ロックされたビルド マシンなど) で動作するため、より頻繁に利用されています。InstallShield でデジタル署名パスワードを指定するとき、.pfx ファイルを使用している場合、パスワードのプロンプトは表示されなくなります。.spc ファイルと .pvk ファイルを使用している場合は、パスワードのプロンプトが表示されることがあります。

以前、InstallShield では、Windows Mobile 搭載デバイス ファイルに .spc と .pvk を指定できましたが、.pfx ファイルは指定できませんでした。

この機能は、Express プロジェクトとスマート デバイス プロジェクトに適用します。

この機能により IOC-000064021 が解決されました。

## サポート対象 Windows Mobile プラットフォームの一覧を更新または変更できる機能

Windows Mobile ウィザードとスマート デバイス セットアップ ウィザードで、モバイル デバイスにインストールされるプラットフォーム要件を設定することができます。プラットフォームは、定義済みのプラットフォーム一覧から選択することができます。今回より、定義済み一覧にないプラットフォームをターゲットする必要がある場合、または、特定の定義済みプラットフォームに関連付けられている構成設定を変更する必要がある場合、InstallShield と共にインストールされている Settings.xml を編集することにより、これらを達成することができるようになりました。以前、プラットフォーム一覧は Settings.xml ファイルで構成できなかったため、新しいプラットフォームをサポートする新しいバージョンの InstallShield にアップグレードする必要がありました。これは、Express プロジェクトとスマート デバイス プロジェクトに適用します。

## Windows Mobile 搭載デバイス用インストールの .cab ファイルを圧縮できる機能

Windows Mobile ウィザードとスマート デバイス セットアップ ウィザードの [デバイス ファイル] パネルを使って、今回より、Windows Mobile 搭載デバイス用に作成された .cab ファイルをビルド時に圧縮するかどうかを指定できます。以前、InstallShield は圧縮 .cab ファイルのビルドをサポートしていませんでした。

この機能は、Express プロジェクトとスマート デバイス プロジェクトに適用します。

この機能は 1-SUVOZ と IOC-000061179 の問題を解決します。

## モバイル デバイス用の .NET Compact Framework 3.5、SQL Server Compact Edition 3.5、および SQL Server Compact Edition 3.1 再配布可能ファイル

モバイル デバイス インストール用の新しい再配布可能ファイル (.NET Compact Framework 3.5、SQL Server Compact 3.5、および SQL Server Compact 3.5 Replication) が利用できるようになりました。これは、Express プロジェクトとスマート デバイス プロジェクトに適用します。

この機能により IOC-000071683 が解決されました。

### 新しい FLEXnet Connect 11 再配布可能ファイル

InstallShield は、FLEXnet Connect 11 のサポートを含みます。InstallShield の [アップデート通知] ビューを使って、2 つの FLEXnet Connect 11 マージ モジュール (Common Software Manager が含まれているマージ モジュールと、含まれていないマージ モジュール) のどちらかを含みます。

## 強化機能

### ベスト プラクティス ダイナミック ファイル リンク

プロジェクトにダイナミック ファイル リンクを追加、または変更するとき、InstallShield がコンポーネントを作成する方法について、新しいベスト プラクティスを使用するか、これまでと同様にディレクトリごとに 1 つのコンポーネントを作成するのかを指定できるようになりました。

コンポーネントは、個別にインストール可能な最小の製品構成単位です。InstallShield の Express Edition では、コンポーネントが自動で作成されます。

コンポーネント作成のベスト プラクティスに従うと、ダイナミック リンクを持つフォルダにある各ポータブル実行可能ファイル (PE) にコンポーネントが別々に作成されます。このコンポーネント作成メソッドを、改良された QuickPatch パッケージの機能と併用することで、Windows Installer のコンポーネント規則に準拠するパッチを作成することができます。

以前、ダイナミック ファイル リンクをプロジェクトに追加すると、ビルド時に、ダイナミック リンクを持つすべてのファイルについてコンポーネントが 1 つ自動的に作成されていました。ただし、ダイナミック ファイル リンクに PE ファイルが含まれているとき、コンポーネントの作成時に Windows Installer ベスト プラクティスが実行されませんでした。

デフォルトで、InstallShield は .exe、.dll、.ocx、.vxd、.chm、.hlp、.tlb、および .ax を PE ファイルとして認識します。[オプション] ダイアログ ボックスにある [ファイルの拡張子] タブで、この一覧を変更することができます。

[ベスト プラクティス] ダイナミック ファイル リンクは、Express プロジェクトに適用します。

この強化により IOC-000053144 が解決されました。

### 仮想ディレクトリのない IIS Web サイトをインストールする機能

InstallShield は、今回より、仮想ディレクトリを一切含まない IIS Web サイトのインストールをサポートできるようになりました。このサポートは、InstallShield で作成されたすべての新しい Web サイトに有効です。

以前、InstallShield では、仮想ディレクトリのない Web サイトのインストールはサポートされていませんでした。そのため、インストールに含まれる Web サイトが仮想ディレクトリを持たない場合、ランタイムに Web サイトが作成されませんでした。

InstallShield 2008 以前のプロジェクトを InstallShield 2009 Express Edition にアップグレードしたとき、プロジェクトに既に Web サイトが含まれている場合、仮想ディレクトリのない Web サイトはインストールできません。仮想ディレクトリのない Web サイトのインストールできるようにするには、それを手動で InstallShield 2009 Express Edition プロジェクトから削除し、新しい Web サイトとして再度プロジェクトに追加する必要があります。

この強化は Express プロジェクトに適用します。

この強化によって、IOC-000056756 と IOC-000067479 が解決されました。

### QuickPatch パッケージの簡素化

今回より、一般的に以前の InstallShield でビルドされたパッケージに比べて新しいサブ機能とビルトイン InstallShield カスタム アクションの数が少ない、簡素化された QuickPatch パッケージのビルドが可能となりました。QuickPatch プロジェクトの

[詳細] タブに追加された "QuickPatch の簡素化" 設定で、この新しいタイプの QuickPatch パッケージを作成するかどうかを指定できます。

この強化により 1-11PUY5 が解決されました。

### QuickPatch パッケージをパスワードで保護する機能

今回より、QuickPatch パッケージをパスワードで保護するためのパスワード設定が追加されました。この設定は、QuickPatch プロジェクトの [詳細] タブ上にあります。

QuickPatch パッケージをパスワードで保護すると、すべてのエンド ユーザーはパッケージをインストールする時に、アップデートを起動するためのパスワード (大文字と小文字を区別する) を入力しなくてはなりません。

この強化により IOC-000059643 が解決されました。

### /v コマンドライン パラメータを複数回使用して、Setup.exe から .msi ファイルに複数のパラメータを渡すことができる機能

Setup.exe から Msiexec.exe に複数の引数を渡す場合、コマンドラインで /v オプションを複数回 (1 引数につき 1 回) 使用することができます。以前、/v オプションの使用は 1 回に限られていたため、すべてのパラメータはこのインスタンスを通して渡されていました。

この強化は Express プロジェクトに適用します。

この強化により IOC-000060083 が解決されました。

### .NET Framework 用の定義済みシステム検索

InstallShield に、次の新しい定義済みシステム検索が追加されました。

- Microsoft .NET Framework 3.5
- Microsoft .NET Framework 3.0 SP1
- Microsoft .NET Framework 3.0
- Microsoft .NET Framework 2.0 SP1
- Microsoft .NET Framework 2.0
- Microsoft .NET Framework 1.1
- Microsoft .NET Framework 1.0

インストールでこれらのいずれかが必要な場合、[要件] ビューまたはプロジェクト アシスタントの [インストール要件] ページを使って、これらのシステム検索をプロジェクトに追加することができます。エンド ユーザーがインストールを起動すると、Windows Installer はターゲット システムの要件が満たされているかどうかを確認します。要件が満たされていない場合、インストールでシステム検索用に定義されているエラー メッセージが表示されます。

この強化は Express プロジェクトに適用します。

この強化により IOC-000065639 が解決されました。

### DIM 依存関係の強化

新しく追加された [オプション] ダイアログ ボックスの DIM タブでは、DIM リファレンスをプロジェクトに追加したときに InstallShield が DIM 依存関係を検索する場所を指定することができます。また、DIM リファレンスと依存関係の DIM ファイルが自動的にプロジェクトに追加されるようになりました。

### Windows Mobile デバイス用インストールのロールバック サポート

InstallShield は今回より、デスクトップからデバイスへのインストールに含まれる Windows Mobile 搭載デバイス用のインストールのロールバックをサポートします。したがって、エンド ユーザーが Windows Mobile 搭載デバイス用の製品をインストール

中に [キャンセル] ボタンをクリックしたとき、インストールがロールバックし、関連 .ini ファイル、.cab ファイル、および .ico ファイルのすべてが削除されます。

## プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2008 Express Edition および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2009 Express Edition にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2008 プロジェクトと InstallShield 2008 以前のバージョンから InstallShield 2009 Express Edition にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。この情報のアップデートは、ナレッジベースの記事「[Q200195](#)」を参照してください。

### InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield 2009 Express Edition を使って以前のバージョンで作成されたプロジェクトを開くと、InstallShield 2009 Express Edition プロジェクトを新しいバージョンに変換するかどうかを質問するメッセージ ボックスが表示されます。[変換する] を選択すると、変換が行われる前に、例えば 0.766 というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から 0.766 を取り除いてください。InstallShield 2009 Express Edition プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできないので注意してください。

InstallShield Express Edition バージョン (InstallShield 2008 Express Edition 以前と InstallShield Express 5 以前) で作成した既存プロジェクトを InstallShield 2009 Express Edition にアップグレードすることができます。InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2009 Express Edition にアップグレードすることはできませんの注意してください。

### 新しいリリースと新しい QuickPatch プロジェクト用の新しいデフォルト セットアップ ランチャの値: Windows Installer を含めない

新しい Express または QuickPatch プロジェクトを作成したとき、Windows Installer エンジンの再配布可能ファイルがデフォルトで含まれなくなりました:

- Express プロジェクトでは、Setup.exe タブにある "セットアップ ランチャ" 設定のデフォルト値は、現在 [はい (MSI エンジンを含めない)] が設定されています。この設定の以前のデフォルト値は [はい (Windows NT および Windows 9x MSI エンジンを含める)] でした。
- QuickPatch プロジェクトでは、[一般情報] ビューの [共通] タブにある [Windows Installer 2.0 エンジンを含める] チェック ボックスと [Windows Installer 3.1 エンジンを含める] チェック ボックスは、デフォルトでクリアになっています。以前、これらのチェック ボックスはデフォルトで選択されていました。

この変更は、InstallShield 2009 Express Edition で作成されたすべての新しい Express プロジェクトと QuickPatch プロジェクトに適用します。

InstallShield 2008 Express Edition 以前で作成された Express プロジェクトまたは QuickPatch プロジェクトを InstallShield 2009 Express Edition にアップグレードしたとき、上記の設定の値は自動的に変更されません。

### Setup.exe および Update.exe プートストラップの Unicode バージョンと ANSI バージョン

今回より、プロジェクトで Setup.exe セットアップ ランチャを作成するとき、Unicode バージョンで作成するか、または ANSI バージョンで作成するかを指定することができます。以前、プロジェクトにセットアップ ランチャが含まれているとき、常に ANSI バージョンがビルドされていました。Unicode バージョンのビルドはサポートされていませんでした。

Unicode セットアップ ランチャは、ターゲット システムで 2 バイト言語のための適切なコード ページが実行されているいにかかわらず、セットアップ ランチャのユーザー インターフェイスで 2 バイト文字を正しく表示することができます。ANSI セットアップ ランチャは、ターゲット システムで適切なコード ページが実行されている場合のみ、セットアップ ランチャ ダイア

ログで 2 バイト文字を正しく表示します。適切なコード ページが実行されていない場合、これらのダイアログで 2 バイト文字が文字化けして表示されます。

InstallShield 2009 Express Edition で新しい Express リリースを作成すると、デフォルトのセットアップ ランチャの種類は Unicode になります。また、InstallShield 2009 Express Edition で新しい QuickPatch プロジェクトを作成したときも、デフォルトのアップデート ランチャの種類は Unicode になります。

Express プロジェクトまたは QuickPatch プロジェクトを InstallShield 2008 Express Edition 以前から InstallShield 2009 Express Edition へアップグレードした場合、既存のバッチのアップデート ランチャの種類はすべて ANSI です。種類は、必要に応じてオーバーライドが可能です。

### ダイナミック ファイル リンク

プロジェクトにダイナミック ファイル リンクを追加、または変更するとき、InstallShield がコンポーネントを作成する方法として、新しいベスト プラクティスを使用するか、これまでと同様にディレクトリごとに 1 つのコンポーネントを作成するのかを指定できます。これらのメソッドは、Express プロジェクトのダイナミック ファイル リンクに適用されます。

InstallShield 2009 Express Edition で新しいダイナミック ファイル リンクを作成すると、InstallShield はデフォルトでベスト プラクティス メソッドを使用します。

InstallShield 2008 Express Edition 以前で作成されたすべてのダイナミック ファイル リンクは、[1 つのディレクトリごとに 1 つのコンポーネント] メソッドを使用します。ダイナミック ファイル リンクがあるプロジェクトを InstallShield 2008 Express Edition 以前から InstallShield 2009 Express Edition にアップグレードした場合、InstallShield は、既存するダイナミック ファイル リンクのコンポーネントを作成するとき、継続して「ディレクトリごとに 1 つのコンポーネント」方式を使用します。アップグレードされたプロジェクトで作成した新しいダイナミック ファイル リンクには、デフォルトでベスト プラクティス メソッドが使われます。2 つのコンポーネント作成方式および適切な方式の選択方法については、「ダイナミック リンクがあるファイルの適切なコンポーネント作成方法を判別する」を参照してください。

### 仮想ディレクトリのない IIS Web サイト

InstallShield は、今回より、仮想ディレクトリを一切含まない IIS Web サイトのインストールをサポートできるようになりました。このサポートは、新しい InstallShield 2009 Express Edition プロジェクトで作成されたすべての新しい Web サイトにも有効です。このサポートは、プロジェクトを InstallShield 2008 Express Edition 以前から InstallShield 2009 Express Edition にアップグレードし、新しい Web サイトを追加した場合も有効です。

InstallShield 2008 以前のプロジェクトを InstallShield 2009 Express Edition にアップグレードしたとき、プロジェクトに既に Web サイトが含まれている場合、仮想ディレクトリのない Web サイトはインストールできません。仮想ディレクトリのない Web サイトのインストールできるようにするには、それを手動で InstallShield 2009 Express Edition プロジェクトから削除し、新しい Web サイトとして再度プロジェクトに追加する必要があります。

### QuickPatch パッケージの簡素化

QuickPatch プロジェクトの [詳細] タブにある新しい "QuickPatch の簡素化" 設定は、InstallShield で QuickPatch パッケージのビルド方法を決定します。簡素化された QuickPatch には、簡素化されていない QuickPatch パッケージに比べ、より少ない数の新しいサブ機能とカスタム アクションが含まれています。

場合によっては、QuickPatch パッケージの簡素化ができない場合があります。たとえば、インストール済みのファイルを削除するように QuickPatch パッケージを構成した場合、簡素化は行えません。

新しい QuickPatch プロジェクトを作成したとき、"QuickPatch の簡素化" 設定のデフォルト値は [はい] に設定されています。ただし、QuickPatch プロジェクトを InstallShield 2008 Express Edition 以前から InstallShield 2009 Express Edition へアップグレードした場合、"キャッシュ パス" 設定は [いいえ] となっています。この値は、必要に応じて変更が可能です。詳しい情報は、「QuickPatch パッケージを簡素化するかどうかを指定する」を参照してください。さらに詳しい情報は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「QuickPatch パッケージを簡素化するかどうかを指定する」を参照してください。

### ビルド時に Setup.exe と ISSetup.dll にストリームされるファイルの圧縮

今回より、**Setup.exe** セットアップ ランチャを使用するリリースをビルドしたとき、**InstallShield** によって、ビルド時に **Setup.exe** ファイルにストリームされるファイルが圧縮されるようになりました。**InstallShield** が使用するデフォルトの圧縮レベルは、ファイルのサイズと実行時に圧縮ファイルを展開するために必要な時間のバランスをとっての目安です。これは、すべての新しいプロジェクトおよび **InstallShield 2008 Express Edition** 以前から **InstallShield 2009 Express Edition** にアップグレードされた既存の **Express** プロジェクトに適用します。

圧縮レベルを変更する場合、または圧縮をしない場合、マシン全体に適用する設定を利用してデフォルトのレベルをオーバーライドすることができます。

以前、**InstallShield** には、ビルド時に **Setup.exe** ファイルにストリームされたファイルを圧縮するサポートが含まれていませんでした。このため、**InstallShield 2008 Express Edition** 以前でビルドされたリリースと **InstallShield 2009 Express Edition** のデフォルト圧縮レベルでビルドされた同じリリースを比較したとき、**Setup.exe** のファイル サイズに若干違いがある場合があります。また、ファイルの展開にかかる時間にも差が生じる場合があります。

### マルチパート .cab ファイル

には、今回より、ビルド時に **SingleImage** リリースについて作成した各 **.cab** ファイル に対して **600 MB** がデフォルト制限として設定されています。**SingleImage** リリースでは、すべてのファイルが単一ファイルの **.msi** パッケージまたは **Setup.exe** セットアップ ランチャに埋め込まれています。**InstallShield** で、この種類のリリースについて **.cab** ファイルを作成しているとき、この制限に達すると、データが 2 つ以上の **.cab** ファイルに分割され、マルチパートの **.cab** ファイルが作成されます。これは、すべての新しいプロジェクトおよび **InstallShield 2008 Express Edition** 以前から **InstallShield 2009 Express Edition** にアップグレードされた既存の **Express** プロジェクトに適用します。

**.cab** サイズの制限は必要に応じて変更することができます。**InstallShield** でマルチパート **.cab** ファイルを作成しない場合、単一の **.cab** ファイルを作成するように構成できます。

以前、**InstallShield** では、マルチパート **.cab** ファイルを作成できなかったため、**.cab** ファイルのサイズのビルトイン制限もありませんでした。

### プロキシ サーバーのサポート

特定のファイルがターゲット システム上で必要な場合のみ、インストールがそのファイルをダウンロードするように構成できます。たとえば、**Windows Installer** エンジン、**.NET Framework**、および一部の **InstallShield** 前提条件が、一部またはほとんどのターゲット システム上に既存する可能性があります。これらのファイルをインストールに埋め込む代わりに、必要なファイルだけを実行時にダウンロードするようにプロジェクトを構成することができます。こうすることで、インストール全体のサイズを抑えることができます。

エンド ユーザーがプロキシ サーバーを使ってインターネットにアクセスする場合で、インストールがファイルをダウンロードするように構成されていると、今回より、インストールはダウンロード中に、**Internet Explorer** で手動で構成されたシステム プロキシ設定を使用するようになりました。これは、ターゲット システム上で別のブラウザがデフォルトとして設定されている場合でも同じです。

**InstallShield** は、**Internet Explorer** の "設定を自動的に検出する" 設定をサポートしませんので、ご注意ください。(エンドユーザーが使用している **Internet Explorer** で、**LAN** 接続に対して [設定を自動的に検出する] チェック ボックスが選択されているときに、インストールでファイルのダウンロードが必要な場合、ファイルのダウンロードができないため、インストールは失敗します。エンドユーザーが使用している **Internet Explorer** で、**LAN** 接続に対して [設定を自動的に検出する] チェック ボックスが選択されている可能性があるとき、ダウンロードされるように構成する代わりに、すべてのファイルをインストールに埋めこんだ方がよい場合があります。ファイルが埋め込まれている場合、失敗は避けられます。) ただし、**InstallShield** は **Internet Explorer** の **LAN** 接続用にセットアップされた自動構成スクリプト機能をサポートします。

この動作は、**InstallShield 2009** におけるすべてのプロジェクト、および以前のバージョンで作成され、**InstallShield 2009** にアップグレードされたプロジェクトでも同様です。

**InstallShield 2008** 以前では、デフォルト ブラウザとして指定されているブラウザで構成されているプロキシ サーバーの設定が使用されていましたが、場合によって失敗し、次のような問題が発生していました：

- Netscape 6 または 7 がデフォルト ブラウザの場合、Netscape 4 の設定が使用される。Netscape 8 または 9 がデフォルト ブラウザの場合、システム (Internet Explorer) の設定が使用される。
- Netscape 4 の設定が使用された場合、プロキシ サーバーの一覧のみが正しく読み込まれ、インポートされる。プロキシ パイプス一覧は読み込まれるが、正しくインポートされない。
- Internet Explorer 4 と互換性がない設定 (オートプロキシ スクリプト設定など) はインポートされない。
- インストールでデフォルト ブラウザの判別に使用する方法が Windows Vista システムと互換性がない。このため、Windows Vista で、デフォルト ブラウザが正しく判別されない可能性があった。

### Windows Mobile デバイス用インストールのロールバック サポート

InstallShield は今回より、デスクトップからデバイスへのインストールに含まれる Windows Mobile 搭載デバイス用のインストールのロールバックが適切な場合、これをサポートします。このサポートには、RollbackCEApps と呼ばれるビルトイン InstallShield カスタム アクションが使用されます。

この新しいカスタム アクションを使うと、エンド ユーザーが Windows Mobile 搭載デバイスに製品をインストール中に [キャンセル] ボタンをクリックしたとき、インストールがロールバックし、関連 .ini ファイル、.cab ファイル、および .ico ファイルのすべてがターゲット マシンから削除されます。

InstallShield 2009 Express Edition で、新しい Express プロジェクトの [モバイル デバイス] ビューに Windows Mobile 搭載デバイス用のインストールを追加すると、プロジェクトに RollbackCEApps カスタム アクションが自動的に追加されます。

[モバイル デバイス] ビューに Windows Mobile 搭載デバイス用のインストールが既に含まれている Express プロジェクトを InstallShield 2008 Express Edition 以前から InstallShield 2009 Express Edition にアップグレードした場合にも、このカスタム アクションが追加されます。

### Express プロジェクトにおける Windows Mobile サポートの変更

Windows Mobile 搭載デバイスのインストールを含む Express インストールについて、Windows Vista システム上で昇格された権限を使ってインストールを起動する必要がなくなりました。昇格された権限は [実行] シーケンスでのみ必要となります。

これまで、リリースの [Setup.exe] タブで "必要実行レベル" を [管理者] オプションに設定してこの問題を回避していた場合は、今後 [起動者] に設定することができます。

### SetARPINSTALLLOCATION カスタム アクションのデフォルト条件

デフォルトで、すべての新しい Express プロジェクトには、ビルトイン InstallShield カスタム アクション SetARPINSTALLLOCATION が含まれています。このカスタム アクション (ARPINSTALLLOCATION プロパティの値を製品のプライマリ フォルダの完全修飾パスに設定します) は、[インストール]-[実行] シーケンスにシーケンスされ、条件を持ちません。InstallShield 2008 Express Edition 以前では、このカスタム アクションのデフォルト条件は Not Installed でした。デフォルトの [Not Installed] 条件を使用すると、カスタム アクションはメンテナンス モード中に実行されず、その結果 ARPINSTALLLOCATION プロパティの値が空白になります。

### Visual Studio の統合

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき Express Edition の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

## バグ修正

### 1-11IUSD

[IIS の構成] ビューを使って、ディレクトリ参照機能が有効な仮想ディレクトリを作成する場合、実行時にインストールが作成するディレクトリが、サイズ、日付、時刻などの属性を表示できるようになりました。以前、一部の IIS で属性は表示されませんでした。

## 1-13AN31

アンインストール中にカスタム アクションの実行がスケジュールされていて、そのカスタム アクションが特定の機能がインストールされていることを条件とする場合、今回より、その条件が **True** に評価された場合にカスタム アクションがアンインストールの実行時に起動されます。以前、その条件が **True** に評価された場合でも、カスタム アクションが起動されませんでした。

## 1-14WG99

InstallShield ビルドプロセスでマージ モジュールをインストールにマージ中に発生した競合とエラーが、ログ ファイルにログ記録されるようになりました。これらの競合とエラーは、ログ機能が詳細コマンドライン パラメータと共に使用されているときのみログに表示されます。

## 1-1AX7AB (QuickPatch)

[ファイル] ビューに、QuickPatch プロジェクトに追加された新しいファイルに使用できる、[COM 情報] チェック ボックスが追加されました。QuickPatch パッケージを使って追加する任意の COM サーバーについて、このチェック ボックス、または既存の [自己登録] チェック ボックスを選択できます。[COM 情報を抽出] チェック ボックスを選択すると、InstallShield はパッチをビルドするたびに COM 情報を抽出します。

[COM 情報を抽出 オプション] は、今回より、QuickPatch パッケージでパッチされる既存のファイルにも使用できます。これによって、適切な場合、QuickPatch パッケージでパッチされる既存ファイルの COM 抽出を有効または無効にできます。

## 1-6FPD1、1-990ZW

ビルボードを含むインストールにおける、様々なダイアログの再描画および更新に関する問題が解決されました。たとえば、インストールにビルボードが含まれている場合、エンド ユーザーが使用許諾契約テキストをスクロールしたときに [使用許諾契約] ダイアログにあるラジオ ボタンのフォーカスが失われることがなくなりました。また、[カスタム セットアップ] ダイアログで様々な機能が選択され、選択解除されたときに発生した再描画問題が解決されました。

## 1-D4L73

イタリア語バージョンのセットアップの初期化ダイアログが実行時に表示される時、"インストールの準備中" 文字列が完全に翻訳されて表示されます。以前、一部の文字列が表示されませんでした。

## 1-YIYRD、IOA-000036510、IOC-000061109

Setup.exe セットアップの [プロパティ] ダイアログで製品バージョン、製品名、ファイル バージョンが切り詰めて表示されていた問題は今回修正されました。

## IOA-000026270

インストールが [実行] シーケンスにあるときに、エンドユーザーによって [キャンセル] ボタンがクリックされた場合、確認のメッセージ ボックスが表示されます。エンドユーザーが [はい] をクリックしたとき、インストールが中止されます。以前、インストールはそのまま続行していました。

## IOA-000030285

特定の状況下で、[INI ファイルの変更] ビューから .ini ファイルを削除すると、.ini ファイルがプロジェクトから削除されるため、今後、プロジェクトを再び開いたときに、[INI ファイルの変更] ビューに **IS\_STRING\_NOT\_DEFINED** エラーが表示されることはありません。

## IOA-000031554

INSTALLDIR の値が、システム検索に含まれるフォルダ パスに設定されているときに、システム検索ウィザードを使ってシステム検索を作成すると、今回より、InstallShield はパスに含まれる [INSTALLDIR] を使用しません。システム検索は、実行時に INSTALLDIR が解決する前に発生するため、[INSTALLDIR] は使用できません。

## IOA-000034496、IOA-000038131、IOC-000060706、IOC-000065939、IOC-000069260

今回より、プロジェクトに含まれる異なるリリースの [ポストビルド] タブにある "フォルダにコピー" 設定で、異なるフォルダの場所を指定できるようになりました。以前、1 つのリリースでフォルダの場所を変更すると、プロジェクトに含まれるすべてのリリースで新しいパスが表示されていました。

また、異なるリリースの "FTP ロケーション" 設定で異なる FTP ロケーションを指定することもできます。以前、1 つのリリースでフォルダの場所を変更すると、プロジェクトに含まれるすべてのリリースで新しいパスが表示されていました。

### **IOA-000036622**

今回より、[再配布可能ファイル] ビューで、[選択したアイテムのみを表示] コマンドと [表示するオブジェクトタイプ] フィルタの両方を使って、アイテムをフィルタすることができます。例えば、[選択したアイテムのみを表示] コマンドを選択してから、[表示するオブジェクトタイプ] フィルタを使ってマージ モジュールのみを表示すると、InstallShield は [再配布可能ファイル] ビューに選択されたマージ モジュールのみを表示します。以前、同じ状況下では、InstallShield は選択済みと選択されていないマージ モジュールすべてを表示しました。

[選択したアイテムのみを表示] コマンドは、再配布可能ファイルを右クリックして使用できます。

### **IOA-000036942**

InstallShield でビルドされた .msi パッケージの Patch テーブルから StreamRef\_ column が欠落していた問題は解決されました。

### **IOA-000037330**

セットアップ前提条件ダイアログの上部に表示されるテキストが、分かりやすく改訂されました。このダイアログは、実行時にターゲット システムが 1 つまたは複数の前提条件をインストールする必要がある場合に表示されます。

### **IOA-000039953**

COM 抽出を実行したとき、HKEY\_CLASSES\_ROOT\AppID レジストリ キー全体がアンインストール時に削除されるようにマークされていた問題は今回修正されました。

### **IOA-000039982**

InstallShield COM 抽出で、Registry テーブルのファイルに、絶対パスではなく、フォーマットされた相対パスが使用されるようになりました。

### **IOA-000039983、IOB-000051625**

[INI ファイルの変更] ビューで構成された .ini ファイルの "ターゲット" 設定で場所を変更すると、実行時に .ini ファイルが 1 つだけ作成されます。以前、ターゲット ディレクトリを変更すると、新しい場所と古い場所のそれぞれに 1 つずつ、合計 2 つの .ini ファイルが作成されました。

### **IOA-000040222**

ターゲット システムにインストールする必要があるセットアップ前提条件が 1 つ以上ある場合、メイン インストールの実行が開始される前に、セットアップ前提条件ダイアログが表示されます。このダイアログの英語以外の各バージョンには [インストール] ボタンがあり、ダイアログ上部に表示されるテキストが正しく [インストール] ボタンを言及するように修正されました。以前、英語以外のダイアログの上部に表示されるテキストは [OK] ボタンを言及し、実際のボタンとは一致していませんでした。

### **IOB-000050891**

[カスタム セットアップ] ダイアログのドイツ語テキスト文字列が改訂されました。今回より、誤字は含まれていません。

### **IOB-000051001**

InstallShield ヘルプ ライブラリの 2 つのヘルプ トピック、「実行時のシリアル番号検証を実装する」と「シリアル番号を検証するカスタム アクションを使用する」に、InstallShield がシリアル番号を検証するカスタム アクションをユーザー定義のカスタム アクションの後にシーケンスする点についての説明が追加されました。つまり、[ユーザー情報] ダイアログの後に独自のカス

タム アクションを追加すると、インストールはこのカスタム アクションを、シリアル番号を検証するカスタム アクションの前に起動します。

### **IOB-000051257**

**DatabaseFolder** ダイアログをプロジェクトに追加したとき、デフォルトのパスが実行時にこのダイアログで表示されなかった問題が今回修正されました。また、エンドユーザーがこのダイアログで [参照] ボタンをクリックしたときも、エラーが発生しなくなりました。以前、実行時に、デフォルトのパスがこのダイアログで表示されませんでした。また、[参照] ボタンをクリックしたとき、「デフォルトのインストール先がありません」というエラー メッセージが表示されていました。

### **IOB-000052089**

実行時に [Windows Installer ログを表示] チェック ボックスを選択できるようになりました。以前、特定の状況下においてチェック ボックスが無効でした。

### **IOC-000053561**

[オプション] ダイアログ ボックスの [.NET] タブで **Regasm.exe** と **InstallUtilLib.dll** の場所に異なるディレクトリを選択すると、警告が表示されるようになりました。異なる .NET Framework バージョンには異なるディレクトリが必要な場合があります。

### **IOC-000054510**

今回より、**InstallShield** で、32 文字以上の同じ名前プレフィックスを共有する複数のプロジェクトについてプロジェクト グループ出力を作成することができるようになりました。以前、同じプレフィックスを持つ 2 つ目以降のプロジェクトは、参照することができませんでした。

### **IOC-000056149**

特定の状況下で、COM データを抽出したとき、**Name** 列にアスタリスク (\*) がある **Registry** テーブルが作成されていた問題は今回解決されました。このアスタリスクによって、関連付けられているコンポーネントのアンインストール中に、該当するレジストリ キーが、すべての値とサブキーと共に、アンインストールされていました。

### **IOC-000058666**

**InstallShield** は、今回より、.NET COM+ コンポーネントをインポートした場合に **Mscoree.dll** を含めることができないという内容のエラーを表示しなくなりました。このファイルは .NET システム ファイルで、**InstallShield** はプロジェクトにインポートしません。

### **IOC-000059322**

ビルド エラー -6211 のメッセージは、今回より、.NET アセンブリ ファイルの完全パスを表示するため、このビルド エラーを解決しやすくなりました。

### **IOC-000059715、IOC-000061070 (QuickPatch)**

**Update.exe** ランチャを使用する **QuickPatch** パッケージをビルドすると、アップグレードされたイメージの **Setup.exe** ファイルに使用された **Update.exe** ファイルのマニフェストが存在する場合、同じマニフェストが使用されます。以前、**InstallShield** は常に要求された実行レベルとして **asInvoker** を使った **Update.exe** マニフェストを構成していました。

### **IOC-000060153、IOC-000065379**

リリースのデジタル署名情報を指定すると、**InstallShield** はビルド中に、**VeriSign** のサーバー ("http://timestamp.verisign.com/scripts/timestamp.dll") をデフォルトのタイムスタンプとして使用します。このサーバー値は、今回より、**InstallShield** と共にインストールされる **Settings.xml** ファイルで指定されます。これによって、異なるタイムスタンプ サーバーを使用できるようになりました。デフォルト XML には以下が含まれます：

```
<DigitalSignature Timestamp="http://timestamp.verisign.com/scripts/timestamp.dll"/>
```

異なるタイムスタンプ サーバーを使用するには、必要に応じて **Timestamp** 属性の値を変更します。タイムスタンプを無効にするには、**Timestamp** 属性に空白値 ("") を使用します。この新しい設定は、マシン全体に反映されますので、ご注意ください。

デジタル署名のタイムスタンプに失敗した場合、今回より、これは警告として取り扱われるため、警告がエラーとして処理されない限り、ビルド エラーが発生することはありません。

### **IOC-000060877**

言語固有の文字を含む言語固有のマージ モジュールが、言語固有文字と同じコード ページを持つ単一言語インストールに組み込まれたとき、それらの文字がそのままの形でマージされるようになりました。以前、言語固有の文字が、一番近いニュートラル言語の対応する文字列に変換されていました。

### **IOC-000060912**

プロジェクトの DIM リファレンスに "Windows Vista 以降" (条件が最小バージョンの Windows およびそれ以降のバージョンに適用します) などのレジストリ条件が含まれているとき、**InstallShield** でコンポーネント条件が正しく作成されていなかった問題は今回修正されました。以前、条件の "以降" の部分が無視され、間違った条件 (**WindowsNT**>=600 条件ではなく **WindowsNT**=600 など) が作成されていました。

### **IOC-000060950 (QuickPatch)**

**QuickPatch** プロジェクトの [一般情報] ビューにある [カスタム アクション] 領域で、今回よりカスタム アクションに格納されている **VBScript** コードを実行するカスタム アクションが一覧表示されるようになりました。以前、このタイプのカスタム アクションは表示されなかったため、**QuickPatch** が適用されるときに実行されないようにチェック ボックスをクリアすることはできませんでした。

### **IOC-000061047**

ビルトイン **InstallShield** カスタム アクション **SetARPINSTALLLOCATION** の **Not Installed** 条件が削除されました。この変更は、すべての新しい **Express** プロジェクトに適用されます。この変更は、このカスタム アクションがメンテナンス操作中に実行されていないとき、**ARPINSTALLLOCATION** プロパティの値が、製品のプライマリ フォルダの完全修飾パスではなく、空白が入るために加えられました。

### **IOC-000061057**

今回より、"**Web** からダウンロード" タイプのインストールと "ソース メディアからコピー" タイプのインストールで同じ **.NET Framework 2.0** 言語がインストールされます。

### **IOC-000061229**

今回より、リリースをビルドしたとき、インストーラ クラス カスタム アクションに同一のプライマリ キーが生成されます。以前、ビルドが実行されるごとに、インストーラ クラス カスタム アクションに異なるプライマリ キーが生成され、これにより、パッチで問題が生じることがありました。

### **IOC-000061587**

再配布可能ファイル ダウンローダ ウィザードを使って **.NET Framework 1.1 Hungarian Language Pack** をダウンロードしたときに、**1038dotnetfxsp1.exe** と呼ばれるファイルでエラー -6247 が起きましたが、この問題は解決されました。

### **IOC-000061588**

**IIS** 用のインストールをビルドするときに、仮想ディレクトリの "アプリケーション名" 設定が空白の場合、ビルド警告が発生するようになりました。警告は、アプリケーション名が空白の場合、実行時に指定された仮想ディレクトリに仮想ディレクトリまたは **Web** サイトがインストールされないことを示します。以前、ビルド警告は発生しませんでした。

### **IOC-000061591 (RegSpyUI.exe)**

**RegSpyUI.exe** は、今回より **requireAdministrator** マニフェストを含みます。このため、**RegSpyUI.exe** が **Windows Vista** システム上で起動された場合、昇格された権限を必要とし、アプリケーションは **COM** データを抽出できます。以前、

RegSpyUI.exe は asInvoker マニフェストを含んでいたため、これを右クリックして管理者として起動すると、COM データが抽出されませんでした。

### IOC-000061684

今回より、DIM 内のファイルに対してアドバタイズ済みのショートカットを作成できます。以前、DIM ファイルのショートカットの "アドバタイズ" 設定で [はい] を選択した場合、ショートカットが .msi ファイルの Shortcut テーブルに追加されていませんでした。このため、アドバタイズ済みのショートカットが実行時に作成されませんでした。

### IOC-000062043

InstallShield で、.exe ファイルのショートカットのアイコンに .ico ファイルを選択したとき、.ico ファイルからアイコンが抽出され、Icon テーブルに .exe ファイルとして追加されます。以前、.ico ファイルの名前が .exe ファイル拡張子を使って変更され、そのファイルが Icon テーブルに追加されていました。

### IOC-000062188

翻訳済み文字列を含む文字列テーブルの .txt ファイルをプロジェクトにインポートしたときに、翻訳された文字列が使用されるようになりました。以前、一部の場において文字列がプロジェクトにインポートされませんでした。

### IOC-000062525

COM+ アプリケーションのアンインストールをエンド ユーザーがキャンセルした場合、今回より、COM+ サーバー ファイルが修復されるようになりました。

### IOC-000062592

.NET 1.1 言語バックのコマンドラインを指定したとき、.NET Framework 1.1 SP1 のインストールが .NET Framework 1.1 のインストールの前に開始された問題は今回修正されました。

### IOC-000062599

Windows Mobile 搭載デバイスのインストールを含む Express インストールについて、Windows Vista システム上で昇格された権限を使ってインストールを起動する必要がなくなりました。昇格された権限は [実行] シーケンスでのみ必要となります。

これまで、リリースの [Setup.exe] タブで "必要実行レベル" を [管理者] オプションに設定してこの問題を回避していた場合は、今後 [起動者] に設定することができます。

### IOC-000062719

ダイナミック ファイル リンクに、バージョン付きファイルとバージョンなしのファイルを含むサブフォルダが含まれている状態で、バージョンなしのファイルがターゲット システムにインストールされたとき、そのファイルについてバージョン番号が設定されていましたが、この問題は今回修正されました。また、ダイナミック ファイル リンクに異なるバージョン番号を持つファイルを含むサブフォルダが含まれるとき、そのバージョン番号がオーバーライドされていた問題も今回修正されました。以前、InstallShield は、処理中のサブフォルダにある最初のファイルのバージョン番号を同フォルダ内のすべてのファイルのバージョン番号として使用していました。

### IOC-000062979

.NET Framework 3.0 からのアセンブリの名前が、Filters.xml ファイルの依存関係の除外一覧に追加されました。これにより、コンポーネントの .NET 依存関係をスキャンで確認したとき、これらのアセンブリが関係としてプロジェクトに自動的に追加されることはなくなりました。

### IOC-000063366

[INI ファイルの変更] ビューで .ini ファイルを追加してから削除すると、実行時にエラー 1324 が発生する問題が解決されました。

### IOC-000063376

IIS ASP .NET バージョンが、今回より、実行時に新しい Web サイトまたは仮想ディレクトリのインストール中、正しく設定されるようになりました。

### **IOC-000063438**

システム検索ウィザードを使ってファイルのシステム検索を作成して、[ファイルの詳細] ダイアログ ボックスに最小サイズと最大サイズ情報を入力すると、今回より、InstallShield がその情報を保存して、ウィザードに再入力するときにこれを表示します。以前は、ウィザードに再入力するとき、[ファイルの詳細] ダイアログ ボックスのサイズ フィールドに誤った値が表示されました。

### **IOC-000063473**

プロジェクトの Directory テーブルに親がないサブディレクトリが含まれるときに、"未使用のディレクトリを保持する" 設定に [いいえ] (デフォルト値) を選択すると、ビルド時に致命的なエラー 0 が発生する問題が解決されました。

### **IOC-000063697**

InstallShield は、Windows 2000 と Windows XP (SP1 なし) マシン上で、ビルド時に COM データを抽出できます。以前は、ビルド警告 -4354 が発生しました。

### **IOC-000063712**

プロジェクトを InstallShield の以前のバージョンからアップグレードすると、既存のダイナミック ファイル リンクがすべて [ファイル] ビューに表示されるようになりました。

### **IOC-000063828**

特定の条件下で 3 GB のハード ドライブ空き領域を持つマシンで特定のインストールを実行すると、"1201: セットアップは C: ドライブに 0 KB のディスク空き領域を必要とします。空き領域を増やしてから、やり直してください。" というエラーが生成されていた問題は、今回解決されました。

### **IOC-000064173 (QuickPatch)**

QuickPatch プロジェクトに .NET アセンブリを追加すると、ビルドエラー -6218 が発生した問題が解決しました。以前、元のベース インストールに .NET アセンブリが含まれておらず、QuickPatch プロジェクトに .NET アセンブリが含まれている場合に、このビルド エラーが発生しました。

### **IOC-000064471**

InstallShield は、MsiPatchOldAssemblyName テーブルの最初の列の名前に Assembly ではなく Assembly\_ を正しく使用するようになりました。

### **IOC-000064515**

InstallShield MSDE 2000 オブジェクトのプロパティを実行時に 設定すると、インストールが指定された値を適切に使用するようになりました。以前、インストールは設定された値の代わりに、Property 値に格納されたデフォルト値を使用しました。

### **IOC-000064847**

PropertyOverrides パラメータが指定されたときに、MSBuild が予期せずに終了する問題は解決されました。

### **IOC-000065201**

[リリース] ビューの [ポスト ビルド] タブを開いたときにスクリプト エラーが発生する問題が解決されました。以前、一部の状況下でこのタブが表示されたときに InstallShield がスクリプト エラー (タイプの不一致: 'HideProShowNotPro') を表示しました。

### **IOC-000066119**

Windows Mobile ウィザードの [cab ファイルの署名] パネルでデジタル署名情報を指定した場合、ビルド時にモバイル デバイス .cab ファイルが Binary テーブルに追加される前に署名されるようになりました。以前、署名のない .cab ファイルが署名さ

れる前に **Binary** テーブルに追加されていました。この結果、インストールがモバイル デバイスへのファイル転送中に、署名がない **.cab** ファイルをモバイル デバイスにインストールする試みが行われていました。

### **IOC-000067155**

**Windows Vista** システム上で **UAC** が無効であり、エンド ユーザーが制限付きユーザー アカウントを使用している場合、昇格を必要とする **InstallShield** 前提条件が、エンド ユーザーに対して [インストール] ボタンまたは [キャンセル] ボタンのクリックを求めるプロンプトを表示します。この場合に、エンド ユーザーが [インストール] ボタンをクリックすると、[インストール] ボタンまたは [キャンセル] ボタンのクリックを求める同じダイアログが、エンド ユーザーに再び表示されます。以前、このケースでは、セットアップの前提条件ダイアログが自動的に無限ループに入っていました。

### **IOC-000067277**

**InstallShield** をインストールするとき、今回より含まれているマージ モジュールは **InstallShield Program Files** フォルダの **Modules\i386** サブフォルダにインストールされます。この場所にインストールされるのは、この場所が共有の場所ではないためです。他のアプリケーションによってもこれらのマージ モジュールがインストールされる場合、別の場所にインストールされません。

以前、**InstallShield** がインストールされたとき、マージ モジュールは、**Program Files** フォルダ内にある **Common Files\Merge Modules** サブフォルダにインストールされていました。この場所は、サードパーティ アプリケーションによってマージ モジュールがインストールされるときに使用されることがあります。このため、マージ モジュールが適切にバージョン化されていない場合、あるアプリケーションをマージ モジュールと共にインストールしたとき、別のアプリケーションと共にインストールされたマージ モジュールがダウングレードされる可能性があります。

### **IOC-000067333**

**InstallShield** は、**.rtf** ファイルの終わりを正しく識別するようになりました。以前、場合によって、**InstallShield** が **.rtf** ファイルの終わりを正しく識別せず、**.rtf** ストリームの終わりに余分なデータが受け渡される原因となっていました。

### **IOC-000067683**

プロパティを設定するシステム検索を作成してから、そのシステム検索をプロジェクトから削除したとき、そのプロパティが **Property** テーブルから削除されていましたが、この問題は今回修正されました。以前、プロパティがプロジェクトの他の場所で使用されているときも、自動的に削除されていました。

### **IOC-000068536**

[INI ファイル変更] ビューから **.ini** ファイルを削除したとき、その **.ini** ファイルがプロジェクトから適切に削除されるようになりました。以前、このシナリオでは、**.ini** ファイルが削除されてから再度プロジェクトを開いたとき、**.ini** ファイルがまだプロジェクトに存在し、キーワードまたはセクションのみが **.ini** ファイルから削除されていました。

### **IOC-000068702**

システム検索ウィザードを利用して、[フォルダ パス、特定のフォルダで特定のファイルを検索する] タイプのシステム検索を作成または修正したとき、エラーが表示されていましたが、この問題は今回修正されました。以前、[ファイルの詳細] ダイアログボックスがシステム検索ウィザードから開かれたとき、一部の状況下でエラーが表示され、ウィザードが終了しませんでした。

### **IOC-000069985**

最小で 1 つ以上のセクションがある **.ini** ファイルを含むプロジェクトで、[INI ファイルの変更] ビューを使ってその **.ini** ファイルのインストール先フォルダを変更した場合、**InstallShield** は今回より、**.ini** ファイル用に新しいインストール先を使用します。以前は一部の状況下で、**InstallShield** は **.ini** ファイルのインストール先を変更せず、新しいインストール先に 2 つめの **.ini** ファイルを追加しました。プロジェクトから **.ini** ファイルのうちの 1 つを削除すると、プロジェクトを再び開いたときに [INI ファイルの変更] ビューで **\*\*\*STRING\_NOT\_DEFINED\*\*\*** が表示されました。

### **IOC-000070377**

[アップグレード パス] ビューで [RemoveExistingProducts の再シーケンス] ボタンを 2 回クリックしたとき、InstallShield は RemoveExistingProducts を InstallInitialize アクションの前の適切な場所にシーケンスします。以前、同じ状況下では RemoveExistingProducts アクションが InstallFinalize の直前にシーケンスされたために、ランタイム エラー 2613 (RemoveExistingProducts アクションの順序が正しくありません) が発生しました。

### **IOC-000070512**

InstallShield では、今回より、モバイル デバイス インストールで 225 文字以上のレジストリ値を作成できるようになりました。

### **IOC-000072258**

InstallShield ヘルプ ライブラリのショートカットに関するセクションに、ダイナミック リンク ファイルにはショートカットを作成できないことを説明する内容が追加されました。

## システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム (ランタイム環境) の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム (オーサリング環境) の要件が説明されています。

### **InstallShield を実行するシステムの要件**

#### プロセッサ

Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)

#### RAM

256 MB の RAM (512 MB 推奨)

#### ハードディスク

500 MB 空き領域

#### ディスプレイ

1024 x 768 (XGA) 以上の解像度

#### オペレーティング システム

Windows 2000 SP3 以降

Windows XP

Windows Server 2003

Windows Vista

Windows Server 2008

#### ブラウザ

Microsoft Internet Explorer 5.01 (IE 5.5 以降を推奨)

#### 権限

システムの管理者権限

#### マウス

Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス

### **ターゲット システム (デスクトップ コンピュータ) の要件**

ターゲットシステムは、次のオペレーティング システムの最低要件を満たさなくてはなりません：

Windows 2000

Windows XP

Windows Server 2003

Windows Vista

Windows Server 2008

### ターゲット システム (モバイル デバイス) の要件

InstallShield に、Microsoft Windows Mobile Device Center または Microsoft ActiveSync を使用するデスクトップ インストールにモバイル デバイス インストール追加してファイルをモバイル デバイスに転送することができるサポートが追加されました。

InstallShield では、Windows Mobile Device Center や ActiveSync、または他のデスクトップ コンポーネントを使用しないデバイスを直接ターゲットするインストールもサポートされています。

InstallShield がサポートする各オプションの概要については、InstallShield ヘルプ ライブラリの「モバイル デバイスにインストールを作成する」を参照してください。

### Windows Mobile デバイスの要件

InstallShield では、多数の Windows Mobile プラットフォームおよびプロセッサがサポートされています。以下は、Windows Mobile プラットフォームの一覧です。

- Windows Mobile 6.x Professional と Classic
- Windows Mobile 6.x Standard
- Windows Embedded CE 6.x
- Windows Mobile 5.0 for Pocket PC
- Windows Mobile 5.0 for Smartphone
- Windows CE .NET 5.0
- Windows CE .NET 4.x
- Pocket PC 2003
- Pocket PC 2002
- Pocket PC
- Palm-size PC 2.11
- Palm-size PC 2.01
- Handheld PC 2000
- Handheld PC Pro
- Handheld PC 2.0
- Smartphone 2003
- Smartphone 2002

InstallShield は、この一覧にないプラットフォームもサポートしますが、デフォルトで条件設定ができないという点で上記のプラットフォームと異なります。追加のプラットフォームのサポートを追加する場合、または、特定のプラットフォームをターゲットするときの条件を変更する場合、InstallShield と共にインストールされている Settings.xml を変更することができます。詳しい情報については、InstallShield ヘルプ ライブラリの「使用可能な Windows Mobile プラットフォームの一覧またはその詳細設定を更新する」を参照してください。

InstallShield では、次の Windows Mobile プロセッサがサポートされています。

- ARM920
- ARM820
- ARM720
- Common Executable Format (CEF)
- Hitachi SH4
- Hitachi SH3E
- Hitachi SH3
- i686
- i586
- i486
- MIPS R4000
- MIPS R3000
- MIPS R2000
- SHx SH4
- SHx SH3
- StrongARM-XScale

### **Palm OS デバイスの要件**

InstallShield では、Palm OS 3.5 以降がサポートされています。

### **Windows Mobile デバイス インストールのデスクトップ要件**

Windows Mobile デバイスにアプリケーションをインストールするために使用されるデスクトップ コンピュータの要件は以下のとおりです。

- Windows XP 上にある Microsoft ActiveSync 3.x 以降 (Windows Mobile 5.x 以降のデバイスには ActiveSync 4.x が必要です)
- Windows Vista 上の Microsoft Windows Mobile Device Center
- 管理者権限

### **Palm OS デバイス インストールのデスクトップ要件**

Palm HotSync は、Palm OS デバイスにアプリケーションをインストールするために使用されるデスクトップ コンピュータに必要です。

## **既知の問題**

既知の問題の一覧は、ナレッジベースの記事「[Q200196](#)」を参照してください。